

2017年(平成29年)5月15日(月曜日)

(2)

「てのひら」で革製品

就労支援施設利用者が製作販売

多機能型就労支援施設「TENOHIRA(てのひら)」(帯広市東2南6、清野真知施設長)は15日、利用者が製作した革製品などのアンテナショップ「思い出工房TENOHIRA(てのひら)」を施設内にプレオープンした。北海道ならではの「エゾシカ」の革を使った子ども向けの靴「ファーストシューズ」(1万円)や、かばん(4000円から)などを販売する。「てのひら」は、高齢者と、発達障害を持つ子ども、のデイサービスを経営する「花」(帯広市西16南5、久保陽一社長)が運営しており、「利用者が手に職をつけ自信につなげてほしい」(清野施設長)と、作業活動として革製品の製作に以前から取り組んでき



た。東京でファッションデザインを学び、イタリアで3年間、革製品作りの修業を続けてきた職人の阿部貴之さん(27)が4月下旬から指導員として加わり、さらに技術アップを図っている。

「エゾシカの革は牛や馬の革よりも柔らかく、薄くて通気性も良いため衣類に適している」と阿部さん。清野施設長は「試行錯誤を繰り返して必死に製作に打ち込んだことが、利用者の自信につながっていった。地域の人に愛される店を目指したい」と話す。他にも利用者らが作ったさまざまな雑貨も販売している。

営業時間は午前11時～午後3時。金・土・日曜が定休日。本オープンは8月の予定。問い合わせは0155・25・2581。

(牧内奏)